



消防大学校だより

予防科第100期の実施

消防大学校では、専科教育の1つとして「予防科」を設置し、予防業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させ、予防業務の教育指導者等としての資質を向上させることを目的とした教育訓練を実施しています。

今年度の予防科100期では、学生48名は入校前に事前教育として約2か月間のeラーニング（インターネットによる個別学習）を受講し、その後、平成28年8月23日から10月13日までの52日間にわたる消防大学校での集合教育を修了し全員が卒業しました。

集合教育では、座学（講義）において、最新の予防行政の動向、法制、燃焼理論、査察・違反処理、教育技法及び講義演習等を学びました。また、今回から新たな科目として加えた「火災予防条例の運用」では、大規模な催しに関する火災予防条例の規定に係る運用要領を修得し、また、「違反処理実習」では、違反処理の事務手続きを演習方式により学び、より高度な知識・技術の修得に努めました。

実技では、違反処理実習と題して、本校の施設を利用した具体的な違反処理の手法（質問調書の記載、命令書の作成及び交付、標識の作成及び公示）を学び、違反処理演習では、講師の違反是正支援アドバイザーから助言を受けながら、違反を覚知してからの処理手順等を学び違反処理全般に対する知識・技術の向上を図りました。

さらに、校外研修では、日本消防検定協会、消防庁消防研究センター、清水建設株式会社技術研究所、東京地方裁判所及び能美防災株式会社メヌマ工場の視察を行い消防業務全般に係る視野を広げ、知見を深めました。

また、今回の予防科第100期は、予防科の変遷において大きな節目となることから、東日本旅客鉄道株式会社安全企画部調査役（前東京消防庁理事兼総務部長）荒井伸幸氏を招聘し特別記念講義を実施しました。

特別記念講義では、近年における防火対象物の違反是正推進の動きの大本となった平成13年の東京都新宿区歌舞伎町小規模雑居ビル火災に関して、消防法令改正や東京消防庁が行った施策とその考え方について火災現場の具体的状況も交えて伺うことができ、火災予防対策の重要性を改めて痛感したところです。

研修を終えた学生からは、「消防大学校でなければ聴講することができない貴重な話が多く有意義であった。」「違反処理要領は机上だけでなく実際に立入検査等を行い体験できたことは大変に参考になった。」など、教育訓練全般及び学生相互の交流を含めて、総合的に有益であったと評価する意見が多く寄せられるとともに、今後の予防行政への展望に係る意見を挙げて、将来へ続く、安全・安心を誓いました。



違反処理実習の様子



荒井伸幸氏による特別記念講義

問い合わせ先

消防大学校教務部 大森助教
TEL: 0422-46-1714

警防科第100期の実施

消防大学校では、警防業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得し、警防業務の教育指導者等としての資質の向上を図ることを目的に専科教育の1つとして「警防科」を設置しています。

本年度の警防科第100期では、入校前の事前教育として約1か月間のeラーニング（インターネットによる個別学習）の受講を経て、平成28年10月19日から12月8日までの51日間にわたる消防大学校での集合教育を修了し、60名全員が卒業しました。

集合教育(座学・講義)では、最新の警防行政の動向、法制、警防活動の多様な事例、戦術、現場指揮、安全管理、図上訓練、教育技法を学ぶとともに、課題研究を実施し、教育指導者として必要な指揮、安全管理能力を醸成させるためのより高度な知識の修得に努めました。

実技訓練では、小隊指揮、中隊指揮を始め指揮シミュレーション訓練を重ね、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた特殊災害対応訓練や多数傷病者対応訓練のほか、実火災体験型訓練（ホット・トレーニング）に加え、今年度から危険物火災対応訓練を導入し、実際に危険物を燃焼させてボイル・オーバー、スロップ・オーバーを再現し、燃焼状況を確認するとともに消火薬剤を用いた消火や漏洩防止訓練を実施するなど災害

対応能力と指揮能力の向上を図りました。

校外研修では、消防研究センター、東京消防庁第八方面本部救助機動部隊・多摩航空センター、米国海軍日本管区司令部消防隊、海上保安庁横浜防災基地の視察を行い、消防業務全般に係る見識を深めました。

さらに今回は警防科「第100期」という節目の期であることから、横浜市消防局長の久保田真人様をお招きして特別記念講演を実施しました。久保田局長は消防署長、警防部長を歴任され、永きにわたって警防分野で御活躍されたその豊かな御経験から、消防における警防の重要性をあらゆる視点から御講演いただきました。

研修を終えた学生からは、「消防大学校でなければ聴講することができない貴重な講義が多く、部下の教育指導のためにも参考となった。」「多くの訓練を通じて指揮、安全管理能力の向上にとっても有益であった。」など、教育訓練全般及び学生相互の交流を含めて、総合的に有益であったと評価する意見が多く寄せられました。

警防科第100期で共に学び卒業した60名の学生が、消防大学校で得た知識・技術等の財産を糧に、郷土の安心と安全の確立に向け、これからの時代を担う消防幹部職員として活躍されることを期待しています。



実火災体験型訓練（危険物火災）の様子



横浜市消防局 久保田局長による特別記念講演

問合わせ先

消防大学校教務部 柏崎助教授
TEL: 0422-46-1712